

し、家庭を持つ。こうした一連のことについて、しばしば困難や制約があって、必ずしも希望通りになっていない現状がある。この現状を変えていくための大きな努力が必要になっていると考えられる。

二つめは、豊かさの持続をめぐってである。人口が減少し、住民が年老いて、新しい活動も生まれてこない。所得や消費が増えず、税金や借金は増えていく。そうした中で豊かさを享受していくことは難しい。人口減少や高齢化を止める努力を払うとともに、日本、日本人らしさを活かしながら、新しい価値を創造していく営みをもっと活発化していく方向を目指していく必要があると考えられる。

三つめは、人の教育や育成をめぐってである。現状を変えていく力は「人」からしか生まれてこない。自ら選択をし、明るい展望を切り開いていくことができるような多様な学びや教育の機会が重要であり、それらの前提として、日本の未来像やそれらをめぐる課題に対する十分な理解の広まりが必要と考えられる。

日本の未来は、私たち一人ひとりの未来の集積である。働く・産むの選択、豊かさの持続、教育・人材育成、この3つの課題は、個人レベルで考えれば、仕事と出産・育児の両立、生計の維持、子育て・教育という私たちが日常的に向き合っている課題である。

日本の未来は私たち自身や子どもたちの未来でもある。それは、私たち自身が考え、行動しなければ変わらない。社会のシステムや慣行を変えるには一定の時間を要するが、少しずつでも変わっていけば、何十年か先には大きな変化となる。今回の分析はそのことも明らかにしている。次章以下で順次説明し、巻末に、未来委員会の取りまとめ報告の全文を掲載する。